

[ウズベキスタン]

サマルカンドの 観光ガイドブックが完成!

2代にわたる青年海外協力隊が、JICAの帰国研修員とともに力を
合わせてサマルカンドの観光ガイドブックを完成させた。

Close Up!

ジャイカの
あしあと



「ギスタン広場にはどう行けばいいの?」「おいしいレストランを知ってる?」
観光客から尋ねられ、地図を示しながら応じるホテルのフロントスタッフ。彼が使っているのは、サマルカンドの新しい観光ガイドブックだ。英語、ロシア語、日本語、フランス語、ドイツ語の5カ国語で表記されている。

東西を結ぶシルクロードの中心都市であり、世界遺産に登録されているサマルカンドには、国内外から多くの観光客が訪れる。だが「分かりやすいガイドブックがなく不便だった」。そう話すのは、2004年にサマルカンドの観光専門学校に派遣され、観光実務などの授業を担当した青年海外協力隊の田原由貴さん。そこで、「もっと観光客が使いやすい本を作ろう」と同僚(当時)のババエウ・ファルフさんと意気投合し、ガイドブックの製作を始めた。

だが製作途中の06年4月、田原さんは任期終了を迎え、後任の田中肇隊員が作業を継続。田中さんはそれぞれの仕事の合間を縫って話し合いを重ね、情報の選定や写真収集、翻訳など多岐にわたる作業を行った。また、その間ファルフさんはJICAの地域観光振興の研修に参加するため来日。観光振興における自治体や地域住民の役割を学び、ガイドブックの製作・活用に役立てた。

そして07年6月、ついに完成。まずは1000部が観光案内所や大使館、ホテルなどに配布された。「完成してほっとしたがこれで終わりではない」と話すファルフさん。市内で開いた完成披露会後、レストランから広告掲載依頼が届くなど反響があり、現在、改訂版を製作している。また、評判を聞き付けた韓国国際協力団(KOICA)のボランティアから協力の申し出があり、改訂版には韓国語も追加される。完成後は店頭などで販売される予定で、人々の間にはガイドブックを活用してより良い観光都市にしようという機運も高まっている。

